

# 厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和2年7月19日(日)  
9時40分開会 11時04分開会
- 2 会議場所 しみず保育所
- 3 出席議員 委員長：中島里司 副委員長：中河つる子  
委員：川上 均、鈴木孝寿、西山輝和、高橋政悦  
議長：桜井崇裕
- 4 事務局 事務局長：田本尚彦、次長：宇都宮学
- 5 説明員 子育て支援課 課長：逢坂登、課長補佐：渋谷直親  
児童保育係長：岡田裕二  
しみず保育所所長：恩田喜久子
- 6 議 件  
  
(1) 所管事務調査について  
・新保育所・御影こども園・幼稚園の運営について
- 7 会議録 別紙のとおり

委員長（中島里司）：只今より、厚生文教常任委員会の所管事務調査を開催する。所管事務調査として保育所施設を見せていただく。休みのため子ども達のいない中、職員の休日を返上して対応いただくことに感謝したい。

(1) 所管事務調査について

・新保育所・御影こども園・幼稚園の運営について

・しみず保育所施設視察（9:40～10:17）

職員の案内により、施設外周を視察の後、内部の各室を案内してもらう。

・施設に関する質疑応答（10:17～11:02）

委員長：課長以下職員の皆様ご協力ありがとうございます。施設を一回りご案内いただいた。ここでの協議については施設に関する事を基本に協議していただきたい。特にいろいろな意見をお持ちであれば、必要によってはフリートークで進めるので、よろしくご協力をお願いしたい。

鈴木委員：施設が大きくなって清掃業務を委託されていると聞くと、どこまでが業者の範囲か、職員の範囲からうまく分けられているのか。これだけ広がっての問題点や改善点。いきなり広がって先生方も大変なところがあると思う。今の段階でどう対応されているか。

所長（恩田喜久子）：業者は12時30分から15時30分まで清掃に入る。未満児午睡室の多目的ホールと0・1歳児のトイレ、廊下と大人のトイレ3箇所、遊技場全体の床や壁、廊下、玄関を清掃。それ以外の場所は保育士が清掃する。事務兼公務補に外回りを見てもらったり、汚れているところがあれば補ってもらっている。清掃で今のところは大きな課題はない。

鈴木委員：草刈について、先ほど入ってきたところでうまく生えているのか生えていないのかというところがあるが、本当はどんなイメージだったのか。このような感じなのか。1週間前に刈ったとのことだが、どのぐらいの日数間隔か。

課長補佐（渋谷直親）：シルバー人材センターに委託し、これまでの保育施設より2回増やして年間5回の外周の草刈をしている。敷地内の芝については電動の草刈機を購入し、公務補に管理してもらう事としている。まだ機械が届いていないので、今私が機械で刈っている。先程外を見ていただいた際指摘のあった、防犯上や害虫の心配もあるので、その辺を所長と事務局で調整して対応していきたい。

鈴木委員：先ほどの施設視察の際、ホールの所で松ヤニが出ているところがあるとの説明を受けたが、発見したときの清掃等はどのようにするのか。

課長補佐：拭き掃除がメインで手の届くところはすぐふさぐように建築係を通じて業者等に施工してもらう。拭き掃除で済むものは先生方が対応。どの場所に出ているか分からないので、確認次第こまめに対応している。

中河委員：保育所はコロナのときも4月から休み無くやっていた中で、消毒などをやりながら新しい施設でもあり大変だったのでは。

所長：新しい施設になってからというわけではないが、朝、子ども達には登所後に必ず手洗いをしてもらう事としており、この施設になっても朝は必ず保護者と一緒に保育室に行って手を洗い、身支度を整えてそれぞれの部屋に入る事を徹底している。ご飯を食べる前にももちろん手洗いをするが、食べる直前に消毒剤で手指の消毒や、トイレの後にも消毒を都度、状況に応じて行っている。小さな子の胃腸炎などの感染もあるので。普段の清掃の中では塩素を希釈した液で保育室の清掃を行っている。子ども達が使うおもちゃや触れる壁なども毎日消毒している。送り迎えの保護者の方にも正面玄関に消毒剤を配置し、必ず消毒するようお願いしている。

中河委員：食事の際に密にならないようにしているのか。

所長：それはなかなか難しい。定期的に換気をするのが今のところの対策。子ども達なのでどうしても間隔をあけていられる事は少なく、どちらかと言えば泣いていれば抱き上げる事のほうが多い。ただ、職員はマスクを着用しており、小さい子には熱中症もあるのでマスクも気を付けてもらうよう呼び

かけているので、大人がマスクをしてきちんと手指の消毒をまめにするよう対応している。

中河委員：5歳児でもマスクは今はしていないのか。

所長：していない。今は暑く、汗をかいて遊んでいるので悪影響が心配。

中河委員：コロナが流行しているという報道があった時期も保育所はずっと開いていた。

所長：家庭の判断で自粛して休む子も多かった。4・5月は土曜日の保育も少なかった。平日休む子も多かった。6・7月に入って少しずつ増えてきた。

西山委員：4月ごろにインフルエンザが流行っているとき、どのくらいの人数が通っていたか。

所長：一番少ないと感じたときで半分。当初148人スタートだったが、大体各クラス半分くらい休んでいるときがあった。それが最後くらい。

西山委員：今は何人くらい。

所長：今は152人で通常通りほとんど来ている。

鈴木委員：ビデオ管理は何かあったときだけ動かすだけで、普段は撮りっぱなしか。

課長（逢坂登）：防犯カメラは24時間録画し、何かあったら確認をする。

鈴木委員：玄関を見たらタイムカードが置いていなかったが。

課長：調理員側（委託職員）は分からないが、職員側はタイムカードを置いていない。

鈴木委員：勤退管理は所長が行うのか。タイムカードに出来ないのか。

課長：タイムカードは役場も置いていない。大分前から。

川上委員：給食は以前手作りしていた。現状は同じような内容か。

課長補佐：給食は味の問題などいろいろあり、当然今までと違う調味料とか納入するメーカーが違うなどあったが、カレーなど作れるものは厨房で作ってもらう。4月は固形のルーを使っていたが、今は元々の保育所と同じようなな作り方に改善して提供している。

川上委員：今納入先が変わっているということだが、今まで地元の食彩館や三丁目広場を利用していたが、今の地元の使用状況は。

課長：今度の火曜日にも説明するが、委託先のレオックと地元業者との打ち合わせがうまくいっていないところがあり、4・5月はあまり地元業者を使えていなかった。レオックも調整していたが、地元側のほうがうまくいかない状況があって、そのうちにコロナがあって業者が札幌のためこちらに来ての打ち合わせが出来なかった。やっと打ち合わせが可能になり、三丁目広場や地元スーパーを少しずつ使っていこうという動きと、レオックと業者の間に当課が入って調整していこうと考えている。午後のおやつなどはほぼ町内で調達している。食材がどうしても揃わないところは、レオックが会社を通じて調達している。

委員長：川上委員、給食に関しては7月21日に話を聞いていくこととしているので、業者の話を聞いて、その後業者に退席してもらってから質疑をしていきたいと思っているので。

川上委員：分かりました。

委員長：今回2日間に渡って調査する事としており、今回は施設に関しての質疑としていただきたい。

川上委員：始まって3か月ほどだが、災害等の避難訓練等予定はどうなっているのか。

所長：避難訓練は通常通り4月から取り組んでいる。発会式から始まって、月に1回火災や地震などの想定、あと年2回には不審者役も入れて実施する予定でいる。雨が降ってもテラスまでは非難行動を取る事としており、これまで第一でも第二でも経験しているのでスムーズに訓練を行っている。

課長：福祉施設や幼稚園は大体毎月避難訓練を行っている。

委員長：不審者役というのは。

所長：スーツを着ていても不審な人はいて子どもは見分けが付かないので、例えば合言葉を言われたらこれはいけない人と判断できるよう伝える取り組みを考えている。

委員長：父兄に協力を頼んでいるのか。

所長：職員で対応している。ちょっと黒いものを着たり、黒いめがねをかけたり。

川上委員：ここに新しく道路が出来、小学生の通学時間と保育所の親の送迎車が入る時間が重なり、結構危ない。何か対策などは特に、ここでやるのか建設課なのか町民生活課なのか、どう考えているのか。

課長：スクールバスが8時過ぎに来るときは保護者の方にはなるべく第一保育所前の道路を入れてきていただくようにしている。実際それほどの通行ではない。

所長：この道路をまっすぐ通過して曲がっていく車もあって、保育所の関係者だけではない。この間もお手紙でお願いしているが、見ている限り頻繁に通行する車はあまり無い。

川上委員：通学と重なり新しく出来たので指導をしている人も心配している。

課長：私たちも心配していたが、比較的保護者の皆さんが協力してくれて、そんなに込み合わない。

課長補佐：標識は既に3月には係を通じて警察にお願いしているが、時間がかかっている。あと、警察には巡回もお願いしている。

西山委員：親は送ってきたら玄関まで来るのか。

所長：中まで入ってかばんを置き多目的ホールまでつれてきてもらおう事としている。玄関で放さないようお願いしている。

鈴木委員：すごく広がった。4・5年前に合併を勧めた方だが、いざ見ると広すぎて管理するほうが大変だと感じる。人数も多くなっている。保育士は全体的に足りているのかいないのか。正職員と2号職員のバランスも含め、現場として十分足りていると言えるのか、ちょっと足りないと思えるのか。現場の声は。

所長：十分に足りているとはいえない。途中入所で小さい子どもどんどん入ってくるので、その分の人出は今後確保していかなければならないと思う。他の職員も休んだりいろいろ有るので、そこをカバーできるように少し余裕が欲しいのが現実。

鈴木委員：それに対して課長は。

課長：今年本当はあと3人保育士を採る予定だったが、応募がなくその分が足りない。その分2号職員を入れたり、資格のない人も2号の常勤として補助に入る体制を何とかとっているが、うちの町に限らず人出が足りない。1号職員も入れているが、時間合わないなど思うようにいかない。今年また3～4人は採用したいが応募があることを願っている。

鈴木委員：何か考えなければ。来る仕掛け、制度など来てもらうことを考えなければならないのでは。人数的に足りないときには管理職にしわ寄せが来ていると思う。今はどう対応しているのか。

課長：所長とか専門員、職員を含め大変だと思っている。何とかしたいところだが、当町だけのことでなくどこも足りていないという話。札幌でも足りないという、帯広でも。なかなかこちらまで来てくれるようにならない。

鈴木委員：根本的なところが解決できていない。例えば給与であったり、保育士の需要が高まっているからそれを是非解決していただきたい。

委員長：私からちょっと。清掃で委託を行った部分とか、消毒の対応とか、父兄に情報を周知しているのか。

所長：父母会はコロナの関係でまだやっていない。

課長：お手紙で給食の委託は知らせている。清掃は知らせていない。

委員長：施設に知らない顔の人が入っていると父兄は警戒する。この部分は何時から何時まで委託しているとか、あとは職員が対応しているとか。また、職員の負担が大きすぎる。絶対数が少ないのに、人数もそうだが業務的なことをカバーしてあげる方法を考えられないのか。職員を集めたけれども3人少ない、それは管理側の責任であり、その責任をきちんとカバーしてあげなければならない。業務的な部分や時間的な部分でお願いをするとか。週に1、2度見ることがあるが、人の子は叱れない大変だと感じる。何かカバーする方法を管理側から配慮する必要があると感じる。

課長：今までそうだが、どうしても現場の負担が多いと感じる。なかなかうまくいかなかった所があるが、そういう意味で清掃部分を委託したり、事務の補完や公務補を入れたり、資格のない職員でも常勤で入れたり、少しずつだが職員の負担を減らすよう取り組んでいる。清掃がもし十分でなければもう少し時間を増やすなど、考えられるのでは。ただ、外から入って業務をしてもらう人の時間はある程度子どもの寝ている間に済ませたいので、3時間程度としている。

委員長：建物の規模が前の状態であれば目が届くが、これだけ広くなれば目配りがどこまで届くか。以前と同じ発想では職員の負担が益々増している。何か一工夫考えてもらいたい。保育士が心に余裕を持って働いてくれれば子どもに伝わる。余裕無く働いていても子どもに伝わる。先生たちがあちこち一生懸命詰めて仕事をしているのを子ども達は見ている。多少余裕を持って働いているのを子ども達は判断できる。そういう環境を作れば保育士の募集にも人が来る。厳しい雰囲気があれば集まってこない。管理部門では配慮が必要。

課長：おっしゃるとおり、現場とも話してどういうところが負担なのか確認したい。

委員長：自分たちのためではなく子ども達のために私たちがどういうことをすればよいのかという事を考えてどんどんぶつけてください。所長。

恩田所長：はい。

鈴木委員：例えば人数的に言えば御影小学校と同じくらいの150人ほど。組織としては事務長がいたりというのは理に適っている。今までは小さかったから、ここには事務職員がいてもいいと思う。先程委員長が言ったように今までとは違うから少し変えていく気持ちで。

課長：まだ始まって3か月。今後話を聞きながら改善できる事は対応していきたい。

委員長：楽しく働いて、楽しく子どもたちが通える保育所というのを目指すための知恵というものを皆で出し合ったほうが良いのでは。変わって3か月、まだまだ課題は出てくるかもしれない。子どものための保育を目指してほしい。

話は変わるが、幼稚園をどうやってここに入れるのか、施設を見た中では見当たらなかった。

課長：幼稚園は今30人ほどだが、3～5歳の今の部屋に混ざる形。そのうちの何人かがお昼寝をしないで帰るということになる。

委員長：今の御影こども園と同じような形になるのか。家庭の事情で保育所には預かれないが、幼稚園として預かるので時間を変えていくもの。制度は以前幼稚園は免許が違ったが今も違うのか。

課長：そう。こども園は保育士と幼稚園教諭の両方を持った保育教諭を置くようにされている。今の正職員は全て両方持っている。2号職員もほとんど両方持っている。

委員長：学校も両方取れるようになってきているのか。

課長：大体なっている。

委員長：施設はいじらなくてもこども園に移行できるということか。

課長：はい。こども園に移行しても大丈夫なような形で考えている。

委員長：先ほど外で話をした周辺整備、草刈りに関連して、草丈が長いところに子どもが入っていくと虫が多く、年何回というのではなくケースバイケースできちんとした管理は管理部門の職員が定期的を確認して子ども達の危害を最小限にするように。昔と違って虫刺されなども病院に行くほど腫れ上がったたりする。全体的に環境整備でお金を掛けてほしいという訳ではなく、きちんとしてもらいたい。この中を探索する冒険心も育ててもらいたい。

中河委員：外を見たとき、周りがJRの土地ですごく草が生えていて、JRに周りを刈ってもらう事はできないか。

委員長：それは出来ない。JRの運営に関係ないことをこちらの事情で話してもまず難しい。汽車の運行やお客さんに影響するのであれば対応されるが、多分厳しいと思う。

課長：フェンスの周りの法面は草刈をしているが、その先のJRのところはお願いしても対応してもらうのは難しいと思う。

高橋委員：7月21日に向けて、契約書の中に「残菜量を確認して記録する」という項目があり、その記録を資料として出していただく事は可能か。

課長：話をしていないので、間に合うように調整したい。残菜量でよろしいか。

高橋委員：ここに書いてある残菜量は何を意味するのか。仕入れに対する残ったものなのか。

課長：残したものである。

高橋委員。子どもたちが残したものであるなら、是非見せていただいて、そのデータによって何かを変えたという事実があればその資料も見せていただきたい。口頭でもいい。記録簿を元にこういうことを変えたということを教えていただければ。

委員長：その資料は対応できるのか。

課長：お願いをしてみる。

委員長：保育所としえ議員に何か伝える事があれば。

所長：新型コロナで今年は6月の運動会やいろいろな行事が中止になってしまったが、運動会は子どもたちにとってすごく意味のあるもので、保育の一環で子どもたちと運動会ごっこをしたり、七夕も親子で楽しんで頂いたが、3密を避けるため保育所で3日間に分けて実施した。教育的意義を考えて行事を見直し、やり方を変えて取り組んでいる。

委員長：大変である。予定通り行くのが一番楽だが、いろいろ変更すると運営するのも大変になる。

所長：それでもお母さんたちも理解して、その様子を見たいということで参観日も6日間くらい予定して分けて様子を見ていただいたり、運動会ごっこの様子などもお伝えできたらと思っている。

課長：今年ばかりでなく、これからこういう時代なので、全体的に行事の仕方などは小学校とかも同様だと思うが、全体的に見直す必要があるのではないかと思います。今まで父兄にかなり入っていただいた部分がある。もちろんいっぱい来てほしいところだが、いろんな事情があってということ。

委員長：声が掛からない。

所長：施設が大きくなった分、保護者の皆さんも増えるが、子どもたちだけで3日間でのんびり出来て先生たちも落ち着いていて良かったと話している。新たな発見もあり、保育の事をいろいろ見直していきたいと考えている。

委員長：今朝9時半から休みの中お願いして施設を見せていただいた。課長以下職員の方、折角のお休みのところお付き合いいただき、いろいろお話を聞かせていただきありがとうございました。新しいも

のがスタートする事はいろんな関心が、父母も当然新しくなった事への期待があると思う。今まで無かったような意見等も出てくる。そういう対応等もあると思う。一つ誇りを持って運営していただきたい。子どもが魅力あると思う保育所づくり、伝統のスタートとして誇りを持って頑張っていたきたい。以上で今日の所管事務調査を終る。

【 閉会 11:04 】